

**県内経済は、生産活動が弱含み、個人消費は減少、
ならびに倒産状況、雇用情勢の悪化などから、悪化
傾向にある。また、世界的な景気後退や急激な円高
などがもたらす経営環境への影響が懸念される。**

1. 平成20年9月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額（全店舗ベース）は2ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、大型、中小型乗用車および軽自動車がいずれも低調となり2ヵ月連続で前年を下回った。生産活動は、一部に明るさが残るものの、全体として弱含みの状況となってきた。投資動向をみると、公共工事は、件数が2ヵ月ぶり、請負金額が3ヵ月連続で前年を上回った。建築着工（民間・非居住用）は、改正建築基準法の影響で減少した前年の反動などから棟数が6ヵ月ぶり、工事費予定額が5ヵ月ぶり、床面積が2ヵ月連続でいずれも前年を上回った。新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲住宅がいずれも増加し全体でも2ヵ月ぶりに前年を上回った。倒産状況は、負債総額10百万円以上の企業倒産が再び二桁台に乗り、保証協会の代位弁済件数ならびに金額も引き続き前年を上回るなど悪化基調にある。雇用情勢は、新規求人倍率、有効求人倍率がともに11ヵ月連続で前年を下回るなど悪化している。

〔消費動向・基調判断 減少〕

大型小売店販売額（全店舗ベース）は、飲食料品の伸びが鈍化し、衣料品を始めとする商品も全般的に低調に推移したことから2ヵ月連続、既存店ベースでは6ヵ月連続でともに前年を下回った。乗用車新車販売は、2ヵ月連続で増加していた軽自動車および大型車、主力の中小型車がいずれも低迷し全体では2ヵ月連続で前年を下回った。消費者物価指数は、前月比では横這いとなったが前年同月比では13ヵ月連続して上昇となった。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、前月まで好調だった薄型テレビ、DVDレコーダーが横這い、エアコン、デジタルカメラ、冷蔵庫などはやや低調、パソコン、携帯電話は不振であり全体では前年をやや下回る水準で推移した。ホームセンターは、園芸用品、ペット用品などが好調で全体ではほぼ前年並みの水準で推移した。旅行取扱額は、個人の国内旅行の伸び悩みが顕著となり、燃油特別付加運賃が高騰した海外旅行とともに前年割れとなった。一方、団体の国内・海外は前年を上回った。

〔投資動向・基調判断 減少〕

公共工事は、県、市町村からの発注増により件数が2ヵ月ぶり、請負金額が3ヵ月連続で前年を上回った。8月の建設着工（民間・非居住用）は、件数が6ヵ月ぶり、工事費予定額が5ヵ月ぶり、床面積が2ヵ月連続でいずれも前年を上回った。新設住宅着工戸数は持家が増加に転じ、2ヵ月連続で落ち込んでいた貸家が分譲住宅とともに大きく増加したことから全体でも2ヵ月ぶりに前年を上回った。建築物着工は、前年の改正建築基準法の影響により落ち込んだ反動などから、足元は前年を上回ってきたが依然低水準にある。

〔生産活動・基調判断 弱含み〕

8月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、102.0（前月比△4.4%）と2ヵ月連続で前月を下回った。原指数でも、94.4（前年同月比△6.5%）と8ヵ月ぶりに前年を下回った。大口電力販売量は、化学、非鉄金属、輸送用機械などで増加し前年同月比+7.5%となったが前年実績を下回る業種が増加傾向にある。

〔企業倒産・基調判断 悪化〕

負債金額10百万円以上の企業倒産状況は倒産件数が再び二桁台に乗り、負債金額も今年最高額となった。また、福島県信用保証協会の代位弁済状況をみても件数、金額がともに前年を大きく上回っており倒産状況は依然悪化基調にある。

〔金融動向・基調判断 低調〕

9月末の預金残高は19ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、前年同月比+0.3%と3ヵ月連続で前年を上回ったが小幅な増加に止まっている。

〔雇用動向・基調判断 悪化〕

新規求人倍率、有効求人倍率（原数値）がともに11ヵ月連続で前年を下回った。また、季節調整値でみた新規求人倍率は0.86倍と平成15年8月以来の1倍割れが続き、有効求人倍率も0.61倍と平成15年9月の水準まで更に低下するなど雇用情勢は悪化している。

県内経済動向の概要

	項目	平成20年7月		8月		9月	
		前年同月比	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比	前月比
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	↗	↗	↔	↔	↔	↘
	乗用車新車登録台数	↗	↔	↘	↘	↘	↗
	消費者物価指数（総合）	↗	↔	↗	↗	↗	↔
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↗	↗	↗	↔	↗	↘
	建設着工棟数（民間・非居住用）	↗	↗	↗	↘	-	-
	新設住宅着工戸数	↗	↗	↗	↘	↗	↗
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	↔	↔	↘	↘	-	-
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↘	↗	↗
企業倒産	企業倒産件数注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	企業倒産金額注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
金融動向	預金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	貸出金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↔	↘	↘
	新規求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↔	↘	↘

良化 ↗ 良化傾向にあるがほぼ横這い ↔ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ↔ 悪化 ↘

注1：前月比は季節調整値、前年同月比は原指数。注2：負債総額10百万円以上。注3：前月比は季節調整値。前年同月比は原指数。

2. 県内経済動向

消費動向

大型小売店 9月の県内大型小売店の販売額は、飲食物品の伸びが鈍化し、紳士・婦人服などの衣料品や身の回り品なども全般的に低調な推移となったことから全店舗ベースで174億91百万円（前年同月比0.3%減）と2ヵ月連続、既存店ベースでも同1.3%減と6ヵ月連続でともに前年を下回った。（注：既存店とは調査月において当月と前年同月でともに存在した事業所の数値。）

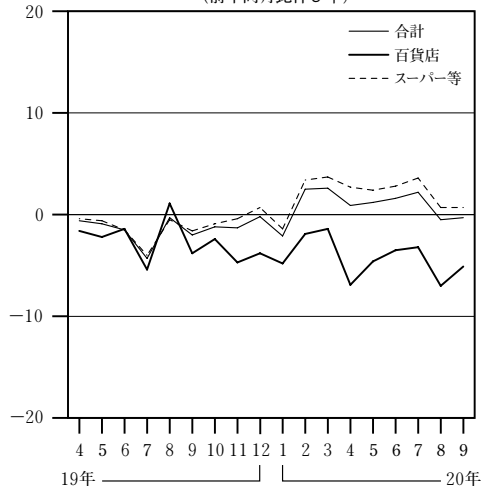
業態別に内訳をみると百貨店は、主力の紳士・婦人服などの衣料品を始め、身の回り品、飲食物品などが低調に推移し全店舗ベースで28億72百万円（同5.1%減）と既存店ベース（同5.1%減）とともに13ヵ月連続で前年を下回った。

スーパーは、身の回り品、衣料品などが低調に推移したが主力の飲食物品の伸びに支えられ全店舗ベースで146億20百万円（同0.7%増）と微増ながら8ヵ月連続で前年を上回った。既存店ベースでは同0.4%減と2ヵ月連続で前年を下回った。

乗用車販売 9月の乗用車新車登録台数（軽乗用車含）は、合計で6,402台（前年同月比7.0%減）と2ヵ月連続で前年を下回った。車種別で見ると、大型乗用車が710台（同9.2%減）、主力の中小型乗用車が3,337台（同9.2%減）と、ともに2ヵ月連続で前年を下回った。軽乗用車も2,355台（同3.0%減）に止まり3ヵ月ぶりに前年を下回った。

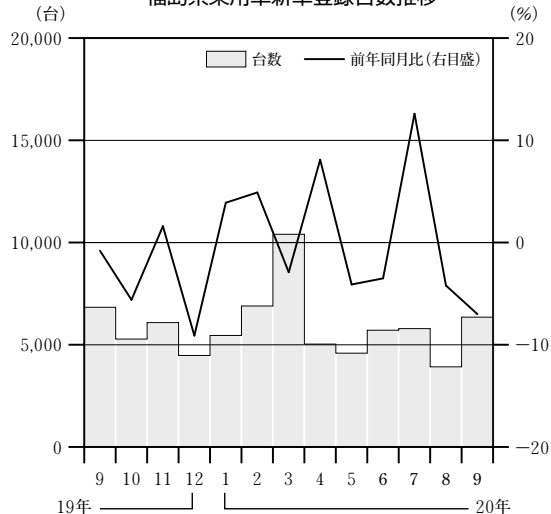
9月の乗用車中古車販売台数（軽自動車は名義

福島県大型小売店販売額（全店舗）
（前年同月比伸び率）



（資料：経済産業省）

福島県乗用車新車登録台数推移



（資料：福島県自動車販売店協会）

変更を含む)は、合計で9,419台(前年同月比4.0%増)と2ヵ月ぶりに前年を上回った。車種別にみると大型乗用車は2,733台(同6.8%増)と2ヵ月ぶり、中小型乗用車は3,580台(同0.7%増)と16ヵ月ぶり、軽乗用車は3,106台(同5.4%増)と2ヵ月ぶりで、いずれも前年を上回った。

消費者物価指数 9月の消費者物価指数は、総合指数(福島市、平成17年=100)でみると、103.6(前月比±0)となり前月比で横這いとなった。

また、前年同月比では+2.4%と13ヵ月連続して上昇した。

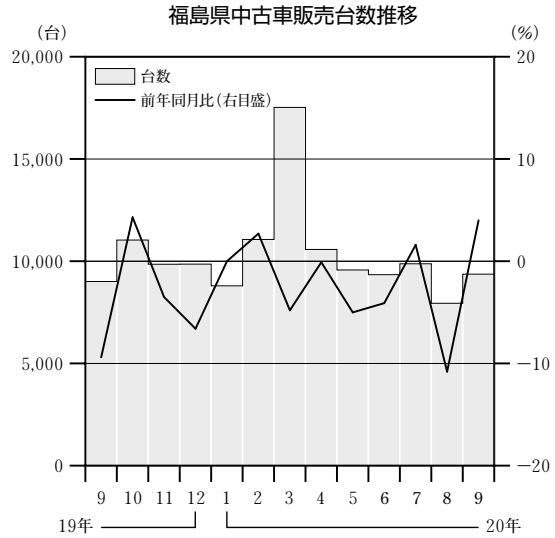
費目別の指数動向をみると、「光熱・水道」は116.2(前月比+0.1%)と7ヵ月連続、「被服及び履物」は105.3(同+11.5%)と4ヵ月ぶり、「保健医療」は98.5(同+0.6%)と2ヵ月ぶりで、いずれも前月を上回った。一方、「住居」は99.9(同△0.1%)と2ヵ月連続、「家具・家事用品」は96.6(同△0.2%)と2ヵ月連続、「交通通信」は106.3(同△2.3%)と5ヵ月ぶり、「教養娯楽」は98.4(同△1.1%)と4ヵ月ぶりで、いずれも前月を下回った。「食料」は105.3、「教育」は102.4で、ともに前月と変らなかった。

家電量販店 9月の売上は、前月まで好調だった薄型テレビ、DVDレコーダーが横這い、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、ビデオカメラなどはやや低調、携帯電話、パソコンなどは不振であり、全体では前年をやや下回る水準で推移した。

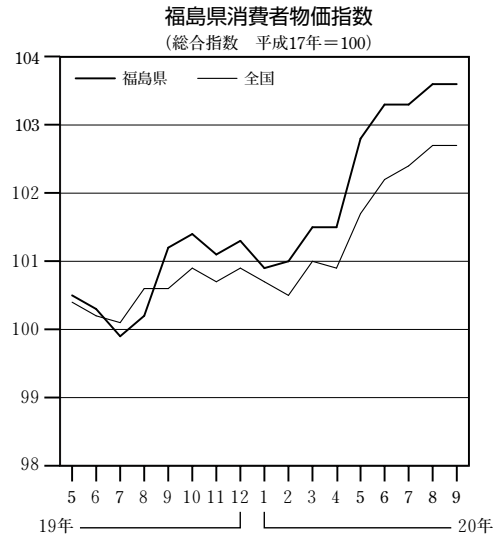
ホームセンター 9月の売上は、DIY商品は低調であるがペット商品、園芸用品などが好調に推移したこともあり、全体ではほぼ前年並みの水準で推移した。

旅行 9月の旅行取扱額実績は、個人の国内旅行の伸び悩みが顕著となり、燃油特別付加運賃が高騰した海外旅行とともに前年を下回った。方面も安・近・短の傾向が強まってきており厳しい状況にある。

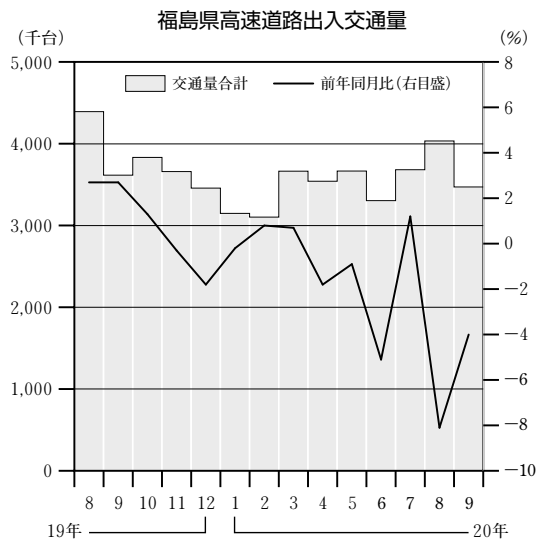
高速道路 9月の県内自動車道通過台数は3,484,031台(前年同月比4.0%減)と2ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると、東北自動車道(白河IC~国見IC)は2,101,994台(同2.8%減)と6ヵ月連続、磐越自動車道(いわき三和IC~郡山東IC)は246,127台(同3.5%減)、磐越自動車道(磐梯熱海IC~西会津IC)は474,557台(同7.3%減)と、ともに2ヵ月連続、常磐自動車道(いわき勿来IC~常磐富岡IC)は661,353台(同5.4%減)



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料: (社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(社)全国軽自動車販売協会連合会



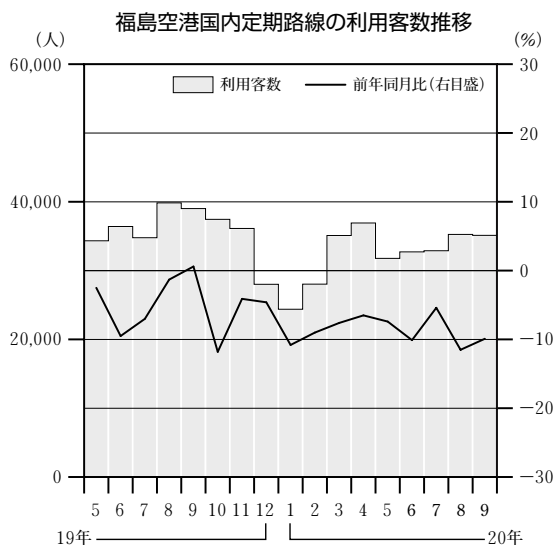
(資料: 総務省統計局)



(資料: 東日本高速道路(株)東北支社)

と11ヵ月連続で、いずれも前年を下回った。

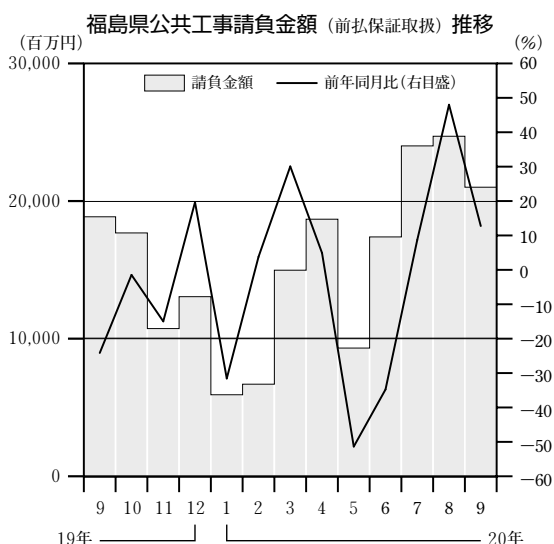
福島空港 9月の福島空港国内定期路線の利用状況は、35,281人（前年同月比9.9%減）と12ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると、札幌便は12,565人（同0.5%増）と13ヵ月ぶり、沖縄便は6,298人（同14.1%増）と2ヵ月ぶりとともに前年を上回った。大阪便は16,418人（同14.7%減）と9ヵ月連続で前年を下回った。一方、国際定期路線の利用状況は6,771人（同4.7%増）と3ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみるとソウル便は6,061人（同22.3%増）と8ヵ月連続で前年を上回った。上海便は710人（同52.9%減）と8ヵ月連続で前年を下回った。



（資料：福島県商工労働部空港交流課）

投資動向

公共工事 9月の公共工事前払保証取扱は、件数が745件（前年同月比10.0%増）、請負金額が210億5百万円（同11.4%増）、保証金額が82億75百万円（同12.1%増）となった。件数は県および市町村などの発注増により2ヵ月ぶり、請負金額および保証金額はともに3ヵ月連続で前年を上回ったものの公共工事発注状況は依然低水準である。

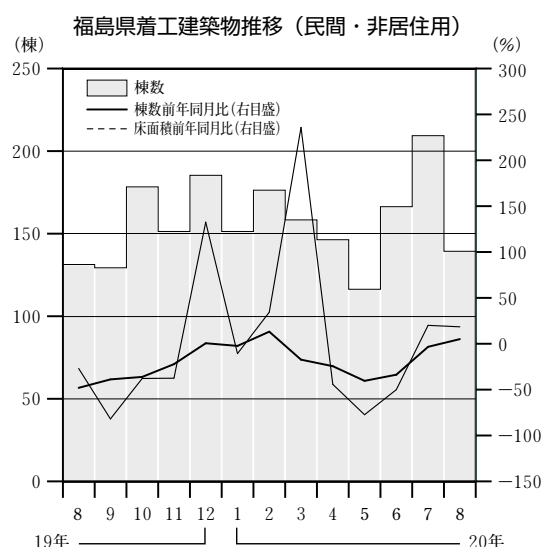


（資料：東日本建設業保証(株)）

9月時点累計（1月～9月）では、件数が前年同期比421件減少し4,034件（前年同期比9.5%減）、請負金額が同58億61百万円減少し1,426億95百万円（同3.9%減）、保証金額が同25億63百万円減少し542億12百万円（同4.5%減）である。

主な発注者別の累計請負金額は、国が前年同期比34億21百万円増加し283億85百万円（同13.7%増）となっている。一方、厳しい財政事情から公共事業費の抑制が続く県が同142億6百万円減少し437億78百万円（同24.5%減）、市町村が同43億86百万円減少し502億99百万円（同8.0%減）となっている。

設備投資 8月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が140棟（前年同月比6.1%増）と6ヵ月ぶり、床面積が95,758㎡（同19.5%増）と2ヵ月連続、工事費予定額が161億11百万円（同34.2%増）と5ヵ月ぶりで前年の改正建築基準法の影響により落ち込んだ反動などから、いずれも前年を上回った。



（資料：国土交通省）

9月の建築物確認件数（計画変更を除く）は、816件（前年同月比18.4%増）と3ヵ月連続で前年を上回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）が192件（同42.2%増）、4号建物（小規模な木造・非木造住宅な

どが対象)が624件(同12.6%増)となり、ともに3ヵ月連続で前年を上回った。「構造計算適合性判定合格件数」は前月比4件増加し28件と2ヵ月連続で前月を上回った。

建築物着工の先行指標である9月の建築物申請件数は、811件(同14.2%増)と4ヵ月連続で前年を上回った。建築物別にみると、1~3号建物が183件(同22.8%増)と3ヵ月連続、4号建物が628件(同11.9%増)と4ヵ月連続で、ともに前年を上回った。「構造計算適合性判定申請件数」は前月比12件減少し14件と2ヵ月連続で前月を下回った。

住宅建設 9月の県内新設住宅着工戸数は、1,462戸(前年同月比63.9%増)と前年が改正建築基準法の影響で落ち込んだ反動などから2ヵ月ぶりに前年を上回った。

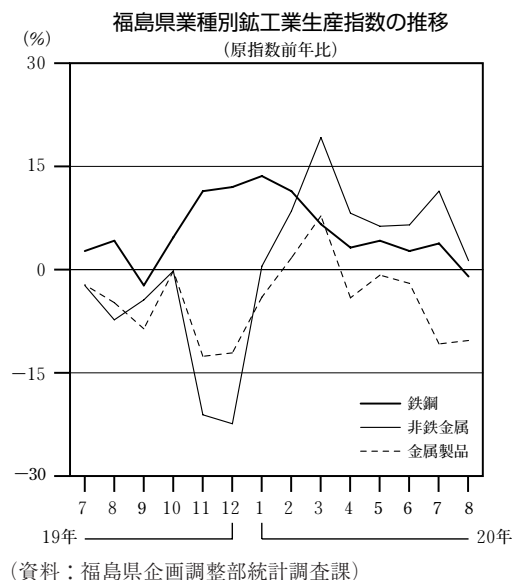
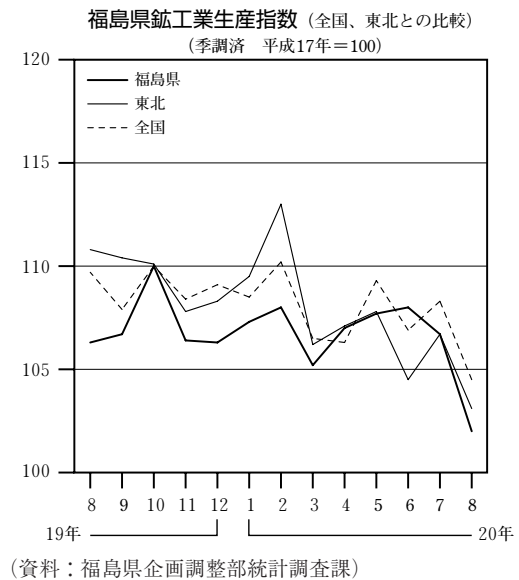
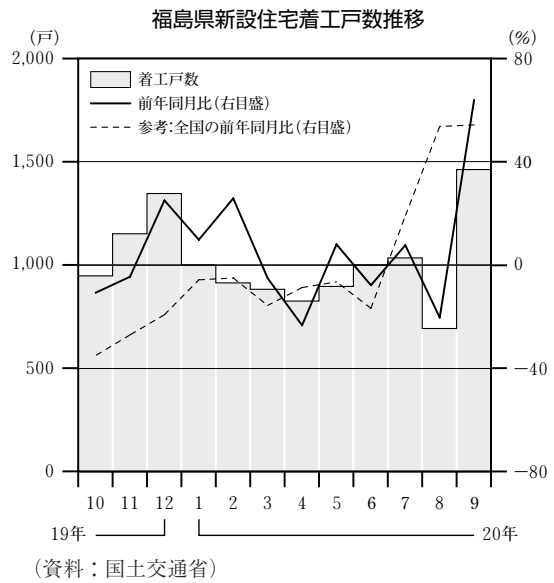
利用関係別にみると、「持家」は723戸(同32.4%増)と2ヵ月ぶり、「貸家」は505戸(同93.5%増)と3ヵ月ぶり、「分譲住宅」は232戸(同172.9%増)と3ヵ月連続で、いずれも前年を上回った。

生産活動

鉱工業生産指数 8月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると102.0(前月比△4.4%)と2ヵ月連続で前月を下回った。原指数は、94.4(前年同月比△6.5%)となり8ヵ月ぶりに前年を下回った。上昇および低下した主な業種別(季節調整済指数)では、金属製品工業で91.9(前月比+3.1%)、印刷業で125.9(同+1.2%)など3業種が上昇した。一方、食品・たばこ工業で75.4(同△15.5%)、電気機械工業で93.2(同△13.1%)、精密機械工業で118.4(同△10.0%)、輸送機械工業で96.7(同△9.9%)となり17業種が低下した。

化学 9月の食品包装フィルム用合成樹脂、金属代替プラスチックや炭素繊維などは堅調な生産で推移した。9月の酸化チタン(白色顔料、自動車用塗料向け)、バリウム化合物(電子部品原料)および電子材料の生産などは前年をやや下回る水準で推移した。

鉄鋼・金属 9月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材、半導体向け電子材はともに前年をやや下回る水準で推移した。建機用は、海外(中国、オーストラリア、中央アジア等)から鉱物資源用、中国関係などからの受注により前年をやや上回る



生産となった。車両用は、新幹線およびJR 中央線・京浜東北線の更新需要およびトバイなど海外からの受注により引き続き好調に推移した。陸上プラント用バルブ部品は原子力関連などの需要増と船舶用バルブ部品も堅調で前年をやや上回る水準で推移した。

輸送用機械 9月の自動車用鋳造品の生産は、国内は一服、東南アジアや中南米、中近東向けなどの輸出向が堅調で前年並みの水準で推移した。

電気機械 9月の変圧器、配電盤、自動車モーター、回転機、電熱炉などの生産は前年を上回る水準で推移した。

情報通信機械 9月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、アジア・中近東（インド、トルコ等）などからの受注により前年をやや上回る水準で推移した。衛星通信機器関連、OA 関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

電子部品・デバイス 9月のLSI（大規模集積回路）の生産は、主力のAV・ゲーム機・家電、車載品、パソコン・OA、通信向けなどは前年を上回ったものの、産業機器、携帯電話向けなどが前年を下回り全体では前年をやや下回る水準で推移した。

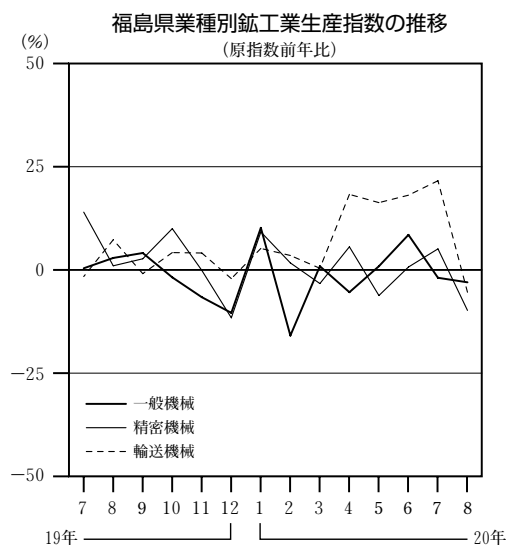
精密機械 9月の医療用内視鏡の生産は前年並みの水準で推移した。デジタル一眼レフカメラ用レンズは前年をやや下回る水準で推移した。

紙・紙加工品 9月の段ボールの生産は、価格引上げ前の駆け込み需要等もあり前年をやや上回る水準で推移した。また、ノーカーボン紙、感熱紙、インクジェット紙の生産は前年を上回る水準で推移した。

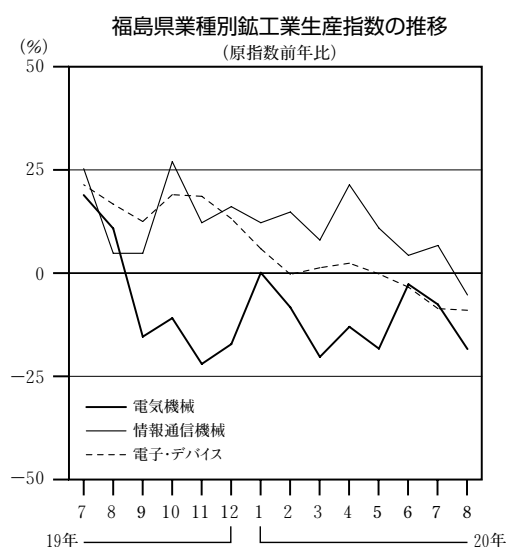
窯業・土石 9月の生コンクリート出荷量は、全体で127,118^m（前年同月比1.5%減）とマイナス幅は縮小したが11ヵ月連続で前年を下回った。

増加地区をみると、官公需では県北地区で中央高速道路工事、白河地区で阿武隈高原高速道路工事、いわき地区で三和トンネル工事、湾岸工事などにより増加した。民需ではいわき地区で病院新築工事、ブリヂストン工場新築工事、会津地区でオリンパス工場新築工事などにより増加した。

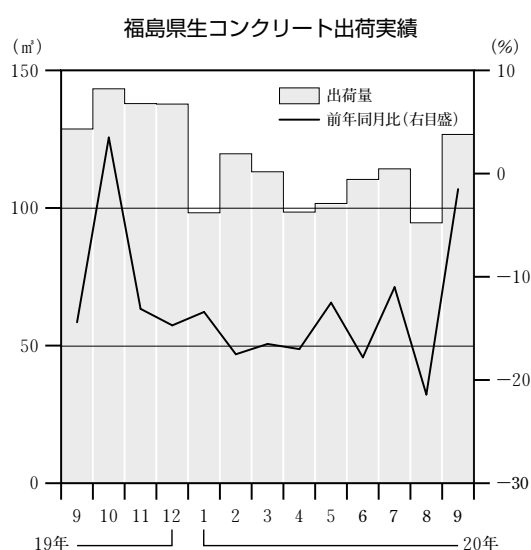
木材・木製品 7月の素材（丸太など）の入荷量は、21,318^m（前年同月比19.3%増）と6ヵ月ぶり、販売量は21,198^m（同18.0%増）と2ヵ月連続で、ともに前年を上回った。一方、製材品（合板など）の入荷量は、2,915^m（同5.1%増）、販



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

売量は2,640㎡（同19.1%増）と、ともに14ヵ月ぶりで前年を上回った。

7月の木造戸数は、新設住宅着工戸数1,034戸のうち、818戸（木造率79.1%）となった。

清酒 9月の清酒移出数量は、1,473kl（前年同月比18.5%増）と7ヵ月ぶりに前年を上回った。

タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が401kl（同17.8%増）と2ヵ月ぶり、一般酒（特定名称酒以外の酒）が1,072kl（同18.7%増）と7ヵ月ぶりで、ともに前年を上回った。9月時点累計（1月～9月）では、特定名称酒が前年同期比3.9%増、一般酒が同3.5%減と、特定名称酒の伸びが顕著になっている。

合成繊維物 9月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に前年を下回る水準で推移した。ポリエステル生産についても、紳士服、婦人服の裏地向けを中心に前年を下回る水準で推移した。

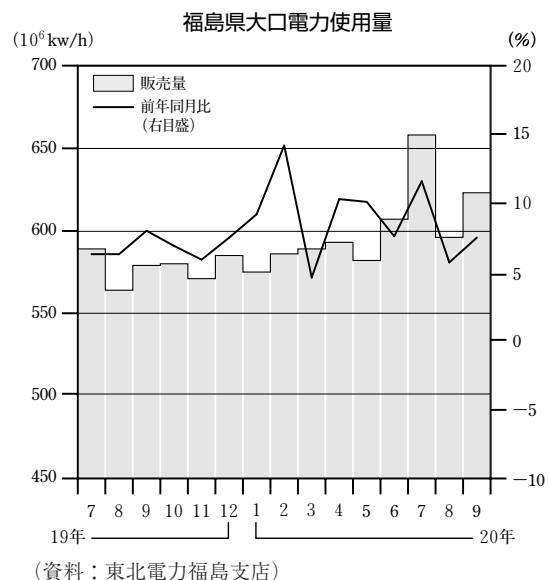
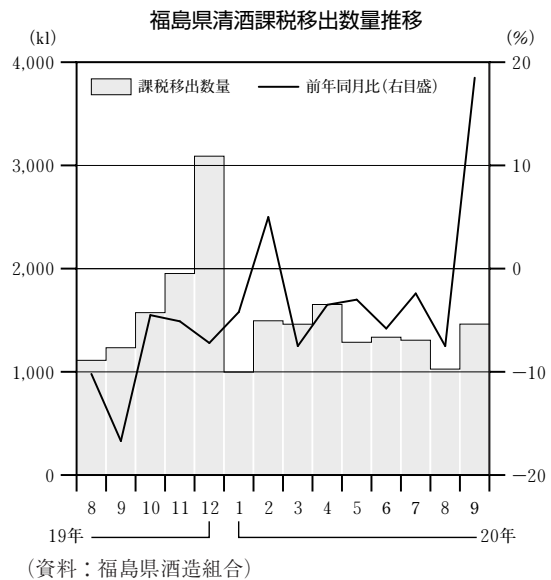
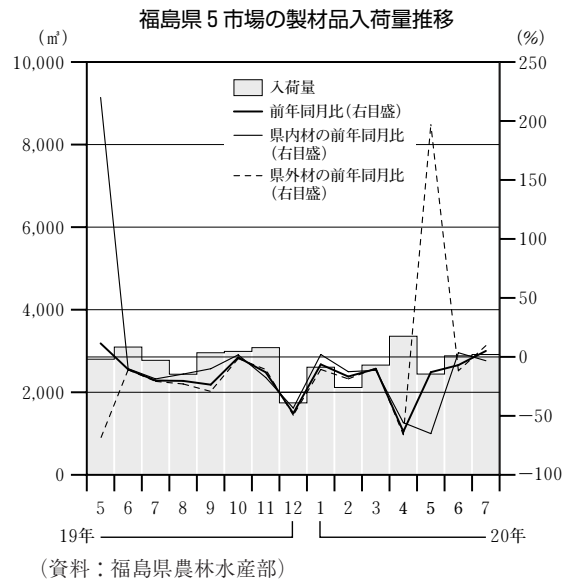
ニット 9月のニットの生産は、消費者の買い控え傾向の強まりから受注・生産は低調な水準で推移した。

大口電力 9月の大口電力販売量は、623百万kw/h（前年同月比7.5%増）と引き続き前年を上回っているものの前年実績を下回る業種が増加傾向にある。

主な販売先を業種別にみると、「電気機械」で131百万kw/h（前年同月比0.8%減）、「非鉄金属」で134百万kw/h（同35.7%増）、「化学」で61百万kw/h（同13.9%増）、「輸送用機械」で66百万kw/h（同7.9%増）、「一般機械」で32百万kw/h（同1.8%減）、「紙・パルプ」で31百万kw/h（同1.9%減）となった。

企業倒産

企業倒産 9月の企業倒産（負債金額100万円以上）は倒産件数が16件（前年同月比77.8%増）と2ヵ月ぶり、負債総額が124億68百万円（同53.3%増）と3ヵ月ぶりでともに前年を大幅に上回った。先月大きく減少した倒産件数は今年2番目に多い件数となり、倒産総額も今年最高額となった。倒産主因別内訳は、受注・販売不振10件、不良債権の累積、系列・下請再編成、経営者の病気・死亡でそれぞれ1件、その他3件となった。業種別内訳は、建設業、卸売業、小売業、運輸・通信業、サービス業でそれぞれ3件、不動産業1件となった。地区別内訳は、県南7件、浜通り5件、県北、



会津でそれぞれ2件となった。

9月時点累計（1月～9月）は、倒産件数が前年同期比24件増加し124件（前年同期比24.0%増）、負債総額が同398億20百万円減少し664億46百万円（同37.5%減）となっている。負債金額10百万円以上の倒産状況は、件数が7月まで10ヵ月連続で二桁台を続け、8月は一桁台になったが再び二桁台に乗るなど高水準にある。なお、負債総額は前年同期比で下回っているが、これは昨年4月に発生した大型倒産（負債金額636億円：パチンコ店）による反動減であり、実体は依然悪化傾向にある。

金融動向

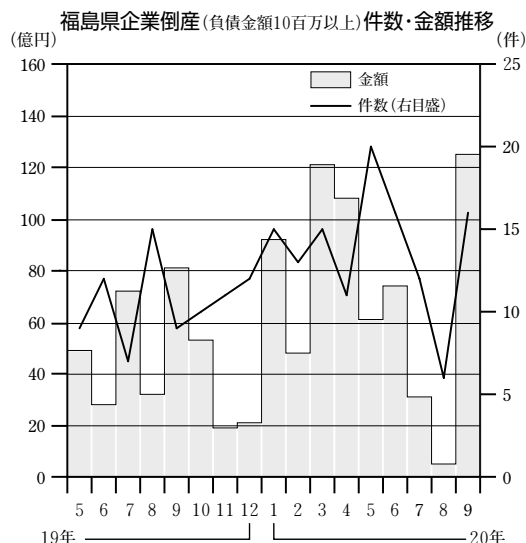
資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の9月末の預金残高は、6兆2,534億円（前年同月比2.0%増）と19ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆8,133億円（同0.3%増）と小幅ながら3ヵ月連続で前年を上回った。

保証協会 9月の保証承諾は、件数が1,234件（前年同月比8.7%減）、保証金額が138億55百万円（同8.4%減）と、ともに8ヵ月連続で前年を下回った。一方、代位弁済は、件数が126件（同96.9%増）と8ヵ月連続、金額が10億1百万円（同52.2%増）と3ヵ月連続で、ともに前年を大きく上回り悪化傾向が一段と強まってきている。

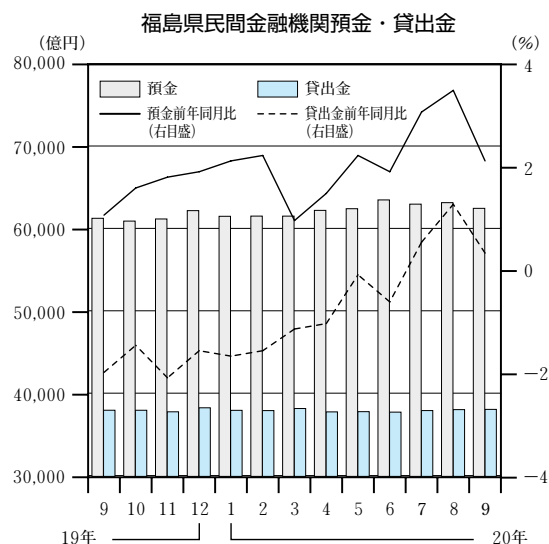
雇用動向

雇用動向 9月の新規求人数（原数値）は、10,037人（前年同月比21.7%減）と11ヵ月連続で前年を下回った。一方、新規求職申込件数（原数値）は、10,636件（同18.0%増）と2ヵ月ぶりに前年を上回った。県内の雇用情勢は新規求職者の増加傾向の中で新規求人数の一層の減少から悪化傾向を強めている。

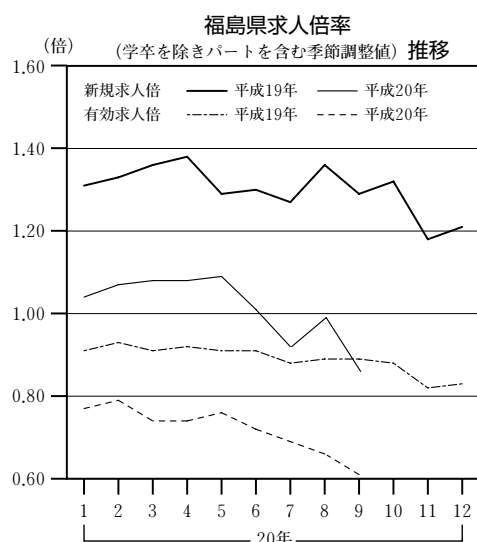
新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.86倍（前月比0.13 \downarrow ）と2ヵ月ぶりに前月を下回った。原数値は0.94倍（前年同月比0.48 \downarrow ）と11ヵ月連続で前年を下回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.61倍（前月比0.05 \downarrow ）と4ヵ月連続で前月を下回った。原数値は0.66倍（前年同月比0.28 \downarrow ）と11ヵ月連続で前年を下回った。



（資料：帝国データバンク福島支店）



（資料：日本銀行福島支店）



（資料：福島労働局職業安定部）